

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 藤松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	長文読解問題で、題意を正しく捉えることに課題がある。
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉の違いを理解すること、必要なことを質問し、知りたかったことの説明を選択すること。
	努力が必要な問題	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の考えをまとめること。
算数	全体的な傾向や特徴など	示された問題を理解し、除法か乗法かの判断をして、計算することができる。モデル文に沿って、記述することを得意とする。
	よくできた問題	表の意味を理解し、グラフを選択し、必要な情報を読みとり、必要なデータの収集、活用をすること。
	努力が必要な問題	百分率等で表された割合を分数で表すこと。
理科	全体的な傾向や特徴など	どの領域も平均的にできているが、特に「生命」を柱とする領域は、全国平均を上回っている。
	よくできた問題	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に自分の考えをもち、内容を記述すること。
	努力が必要な問題	「エネルギー」を柱とする領域の問題に対するまとめからその根拠を実験結果を基にして書くこと。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書が好きな割合は、平均を大きく上回っている。図書室に行く回数や、隙間時間での読書の時間が、増えているためと考える。 ・理科学習が、好きで、大切と思っている児童が、平均を上回っている。理科の授業で学習したことは、将来役に立つと考える割合が高い。 ・学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立つと考えている児童が多い。しかし、実際には、授業中に十分活用ができていないので、ICT機器を使用する回数が増える学習に取り組ませていきたい。 ・人の役に立ちたいと考えている児童は、100%で、社会をよくすることに貢献したいと考えているが、地域行事に積極的に参加する児童は少ない。コロナ禍で、地域行事がかなり減っていることも一因と考える。 ・スマートフォン等での動画視聴時間が、2～3時間以上の児童が増えたり、家庭でのルールが、特になという児童も多くなったりする。 ・家庭学習に対して、主体的に計画を立てて、勉強をしている割合が平均を下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究を基にして、児童がより主体的に学習に取り組むよう、授業において、課題・めあて⇒結果予想・見通し⇒実験・観察⇒考察⇒まとめという基本的な授業の流れを意識した授業改善に取り組む。 ・どの教科も資料や事実を基にして考えたり、意見を交換したりして児童が自分の考えをより確かなものにする学習を重点的に行う。 ・朝の学習時間や補充学習時には、一人一台端末を活用し、児童が進んで学習に取り組めるようにする。また、学習中でもICT機器の活用の充実を工夫することで、個別最適な学び、主体的な学びを目指していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・児童が規則正しい生活を送ることができるよう、これまでの「藤松小生活がんばりカード」の取組を長期休暇の後に実施し、生活習慣の見直し、立て直しを図る。 ・家庭学習については、学校だよりや学級通信等を使い、家庭との連携を図る。一人一冊「自学ノート」を活用し、自主的に家庭学習に取り組むための工夫をする。 ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家庭に協力をお願いし、規範意識を育てるような啓発を行うようにする。
